

クラス	108	担当教員	まがり だ ひろ かず 曲 田 浩 和
	テーマ	身近な歴史を考える	
	著書・論文  研究課題等	「尾張国知多郡下半田村の頭百姓制に度みる村社会の一端」『知多半島の歴史と現在』No.14(2007)。 研究課題は、「近世における知多地域の産業・流通・金融の相互関連性と地域社会の変容」である。	
<b>ゼミナール 概要</b>			
<b>キーワード：歴史・ものづくり・生活・文化・地域・経済</b>			
<p>目的、内容、方法等：</p> <p>歴史は、人々がどのような社会のなかで生きてきたのかを考えることが重要です。そのためには、政治・経済・文化などのなかで総合的に捉える必要もありますが、身近な素材をもとに歴史を考えることも必要です。たとえば、洗濯機と洗剤、眼鏡、ゼムクリップ・鉛筆、カタログ、などです。このような身近なものがどのように生まれてきたのか、どのような歴史の変遷をたどってきたのか、などについて考えてみたいと思います。モノが変われば生活が変わる。生活が変われば意識が変わる。意識が変われば社会が変わる。ひとつのモノの変化が大きく歴史を変えることにつながることもあります。「変化をみる」というところにゼミのポイントを置きたいと思っています。</p> <p>さらに、地域に焦点を当てて歴史を考えます。知多半島のものづくりや、知多半島の観光などを取り上げ、知多半島を中心に環伊勢湾を捉えてみたいと思っています。いずれにしても、歴史は、なぜ変化したのか。どのように変化したかについて考える学問です。原始時代から現代まで、さまざまな変化によって、時代が作られています。日本史を意識しながら、身近なモノや地域について考えてみたいと思っています。</p> <p>授業計画：</p> <p>2年生前期：テキストをもとに、単元に基づき個人報告 夏休みにはゼミ研修を行います。</p> <p>2010年度は東京（日本銀行貨幣博物館・丸の内オフィス街） 2011年度は京都（国際マンガミュージアム・生八つ橋工場見学）</p> <p>2年間後期：夏休みの課題「身近な道具の歴史」をもとに個人報告</p> <p>3年生：知多半島地域の歴史研究および歴史的資源の活用について</p> <p>2008年度テーマ「半田赤レンガ建物の活用について」 2009年度テーマ「歴史的資源を活かした日間賀島観光プラン」 2010年度テーマ「知多半島プロデュース～内海レゲエ祭と鉄板焼屋～」 2011年度テーマ「知多娘の認知度について」</p> <p>3年生の研究テーマは、ゼミ学生間の話し合いにより、テーマを決定します。</p>			
<b>使用テキスト</b>		<b>担当教員からのメッセージ</b>	
柏木浩 『日用品の文化誌』岩波新書 1999年		歴史だけでなく、現在の事柄にも関心を持ち、常に敏感でいてください。毎日、新聞を読むことを心がけてください。	